
Pombal

について

ポンバル

12世紀、この地にポンバル城（Castelo de Pombal）の建設を命じたのは、テンプル騎士団長のグアルディン・パイス（D. Gualdim Pais）です（この城の周囲に村は発展していきました）。当時この一帯は、キリスト教徒によって奪回された領土と、いまだムーア人の支配下にある土地との境界線をなしていました。

18世紀、晩年の日々をこの地で送ったポンバル侯爵（Marquês de Pombal）の命で、村の土地の低い部分の計画がすすめられ、数多くの公共建築が建てられました。18世紀末に、リスボン・ポルト王立街道（estrada real Lisboa-Porto）がポンバルの中央を通過して敷設されると、地域一帯はこれがはずみとなって新たな発展を遂げました。

今日、この街道はもはやポンバルの町の中央を通過してはいませんが、この地域への交通の便は非常によく、周辺一帯をめぐる旅行も簡単にできます。セーラ・デ・シコ（Serra de Sicó）には無数の洞窟があり、付近の村々では、今も昔ながらのチーズや菓子が作り続けられています。その他にもこの地方の手工芸品として、カーペット、柳細工の籠や敷物、焼き物、織物などが挙げられます。

ウルソ国立森林公園（Mata Nacional do

Urso）を横断して沿岸部へと向かうと、あらゆる種類のウォータースポーツを楽しめる、静かな浜辺が広がっています。